

## II 資料の収集・研究成果の公開

### —博物館資源センター—

#### [概要]

博物館資源センターは、資料の収集・管理と、研究成果公開の場である展示を中心とした、博物館事業を所管している。これらを効率的に運営するため、資料・修復担当者および情報・知財担当者による資料担当者会議、展示担当者による展示担当者会議、ならびにくらしの植物苑運営会議をふまえ、月例の博物館資源センター会議を開催して、実施に当たった。

#### 1. 資料の収集・製作・保存管理

博物館における研究とその成果公開としての展示を行うために、資料の収集と保存管理はきわめて重要な事業である。資料収集は、共同利用性・継続性・柔軟性の3点からなる基本方針に基づいて進めている。以下、2019年度の受け入れ資料の一部についてその概要を述べる。購入資料としては、「廣橋家旧蔵記録文書典籍類」(H-63)の本来ツレと考えられる「大仁王会部類記」,「歌川派錦絵版木」のうち「隅田堤闇夜の桜」(H-1778-11)の追加となる版木6枚,「錦絵コレクション」(H-22)の追加となる錦絵14枚といった、既存の館蔵資料を補完・充実させるものが挙げられる。加えて今年度は、幕末明治期における諸外国の日本に対する見方を示す地図や外交文書、近代化のなかで諸産業が世界とのかかわりとのなかでどのように発達していったかを示す写真帖,パンフレット,行政・事務資料,記録,など,総合展示第5・6室リニューアル事業にともなう近現代資料の積極的な購入が進められた。

また、昨年までと同様に正倉院古文書の複製製作を実施したほか、「日独防共協定書複製他」に追加する信任状・条約書・書簡等15件19点の汎用資料を受け入れた。

保存管理については、資料保存環境検討委員会の助言の下に、引き続き文化財害虫調査や、温湿度、資料コンディションなどの調査を進め、環境の改善や対策を検討した。

#### 2. 展示活動

歴博は、歴史資料・情報の収集、整理、保存、公開という一連の機能を有する大学共同利用機関であり、特に、研究資源の収集と研究と展示とを有機的に関連させる「博物館型研究統合」というスタイルで、研究の成果および情報の発信を行っている。展示については、総合展示および企画展示、特集展示、くらしの植物苑における特別企画、人間文化研究機構の基盤機関が連携して展示を企画・実施する連携展示などをその具体的な活動として挙げることができる。

2019年の年末より世界的な流行となった新型コロナウイルスへの対応策として、2020年2月28日より歴博は展示室閉室のやむなしに至り、2019年度末時点において開館のめどはたっていない。

2019年3月19日にリニューアル・オープンした総合展示第1展示室(先史・古代)は、通常の春の企画展示を越える観客動員を記録し、先史・古代に関する国民の潜在的な興味関心の高さを反映する結果となった。全面的に刷新された展示は、近年の学問の進展を踏まえて、より目線の広い、かつ深く掘り下げられた、自然科学的研究の成果との整合性が一層高められたものとなった。

企画展示では、2つの企画展示が企画された。「ハワイ：日本人移民の150年と憧れの島のなりたち」(2019年10月29日～12月26日)は、日本人移民150年の歴史、交流史からディープなハワイを再発見、再認識しようとする意欲的な展示である。日本人以外の移民にも焦点をあて、多文化の衝突と共生、エスニックマイノリティなど、今日の社会においても重要で普遍的な課題に向き合った。ハワイ大学、スタンフォード大学など海外の歴史資料、国内の移民関係コレクションなど、ハワイ移民に関する多彩な資料を展示した。歴博らしい課題設定は、研究者から一般までの幅広い関心を集めた。「昆布とミヨクー潮香るくらしの日韓比較文化誌」は、2020年3月17日から5月17日までを会期として企画され、歴博と韓国国立民俗博物館による国際交流事業「日韓地域研究の実践的展開」ならびに共同研究「海の生産と信仰・儀礼をめぐる文化体系の日韓比較研究」による3年間の準備研究を経て、両国の国立博物館が共同で企画を練り、日韓ではほぼ同じ内容でおよそ400件の展示を行う画期的な試みであった。先行して韓国で2019年10月2日から2020年2月2日まで開催された展示は好評を博し、日本での展示が期待されたが、新型コロナウイルス対策に伴う展示室閉室にともない、2019年度末時点において開催できない状況にある。窮余の策として、展示の内容を解説するダイジェスト画像5本を作成し、2020年3月27日より歴博の公式YouTubeチャン

ネルからの発信を開始したところ、新しい試みとして注目され、新聞・テレビにとりあげられた(2020年4月・5月)。

第1展示室のリニューアル・オープンにともない新たに設置された同室の特集展示室では、「正倉院文書複製の特別公開―クラウドファンディングによる製作と展示―」(2019年3月19日～5月12日)を開催し、複製にあたりご寄贈頂いた方々への感謝の念を示した。

第3展示室の特集展示「もの」からみる近世では、くらしの植物苑の特別企画「伝統の朝顔」に関連して、錦絵や版本、番付などの朝顔についての歴史資料を展示した「伝統の朝顔」(2019年7月30日～9月8日)、屏風や刷り物に描かれた寺社に関する研究成果として「描かれた寺社境内」(2019年12月24日～2020年2月2日)、隔年で展示している「和宮ゆかりの雛かざり」(2020年2月26日～4月5日(予定))を開催した。

第4展示室の特集展示では、災害で被災した地域の祭礼などの文化や文化財等の保存に係る活動をテーマとした「よみがえる地域文化―岐路に立つ共同体のいま―」(2019年7月23日～11月4日)、近代から現代までの化粧品等の変遷を展望した「石鹸・化粧品の近現代史」(2019年12月3日～2020年8月30日)を開催した。

### 3. 情報発信

歴博の資料収集方針にもとづき蓄積された資料は、資料調査プロジェクト等により、研究資源として有効利用されるために必要な情報が付与され、館蔵資料データベースとして公開されているが、さらに踏み込んで、より高次の研究情報を付与した目録・図録、あるいはコレクションに特化したデータベースなどの形で公開されている。

博物館資源センター長 鈴木卓治